



沖縄国際大学 FD通信

発行者：沖縄国際大学 教務部長（2010年 1月18日）

2. 第1回FD研修会を振り返って—今後に向けて—

授業改善計画書 指定科目プロジェクトでは、第6回のミーティング（2010年12月15日開催）で第1回FD研修会の振り返りを行いました。その中で、今後の課題として、次のような意見がありました。

- 1) ディスカッションの時間を十分に設けた方が良い。
- 2) 質疑応答の時間を多めに取った方が良い。
- 3) 小グループに分かれて、テーマ別にディスカッションする（ワークショップなど）の企画を今後検討した方が良い。
- 4) ワークショップ形式の方が、授業改善の悩みや本音が聞き出せる。
- 5) 共通英語の目標について、参加者からあまり引き出せなかった。などなど。多くの改善点が意見としてありました。

今後さらにより研修を企画できるよう、ご指摘いただいた面は改善できるように取り組んでいきます。

また、本学の共通英語到達目標は、プロジェクトチームにおいて原案が作成され、本提案を実現させるために次年度以降本格的な議論を実践していく予定です。



2. 「CALL 教室」を活用した学生の主体的な“学び”を目指して

CALL 教室には、語学学習に関する視聴覚教材が多種多様に取り揃えられています。3教室にパソコンが144台設置され、その施設の充実度は、県内でも随一の規模を誇っています。

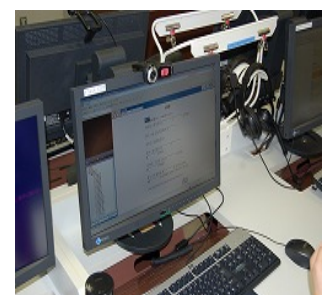
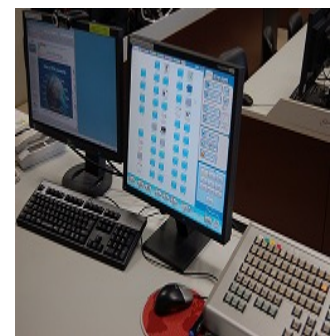
多様な視聴覚教材を用いて、学生は好きな時間に自分のペースで語学を学び、着実に語学能力を向上させる取組が充実しています。

CALL 教室の詳細は、本学の2011年度大学案内 P64～P65にも掲載され、より多くの学生がCALL教室を活用することが期待されています。

<http://www.okiu.ac.jp/info/pamphlet/data/okiu2011pamphlet.pdf>

CALL 教室では、株式会社チエルの常駐スタッフが教員の教材作成支援、学生の語学学習のサポートなどを行っています。

今回は、スタッフの松川知加さん、大城明菜さんに、お話を伺うことができました。（次頁へ）



3. 「もっと多くの教職員、学生に活用して欲しい！」（松川さん・大城さん）

Q1: CALL 教室で学生に対して行っているサポートは何ですか？

教材貸出、DVD 貸出（語学ライブラリ）、英検など語学検定試験対策教材の貸出や、授業中・自習中のサポートを主に行っています。具体的には、シャドウイング（流れる音に合わせて喋る学習方法）のサポート、機器の操作説明、eラーニングの使い方、後期開始時の理解度確認、トラブルシューティング作成などを行っています。また、CALL 教室備えている教材の中味が分かるよう紹介の方法に工夫凝らしてしています。

Q2: 語学学習の主体的な学びのために、心がけていることは何ですか？

授業内でサポートする場合は、進行や段取に気を使っています。また、授業内容に関する様々な提案や事例の紹介を行っています。学生に対しては、CALL 教室が学ぶ上でより良い環境であることがわかるように、感じたこと、気づいたことを十分に表現できるよう配慮しています。

Q3: 「このケースは良かった」という成功事例を教えてください。

教員が CALL システムや教材を用いてどのような授業を展開するのか上手くデザインできていないケースがあるので、それに対して、提案や助言を通じて実践してきたことが成功した場合は良かったなと感じます。

具体的には、シャドウイングを通じて、録音した課題を提出するというスペイン語の事例がありました。お互いの会話内容を自己紹介し合い、ムービーテレコ（ソフト）を用いたケースなのですが、学生の反応が非常に反応良かったです。教員から促さなくても、学生が自主的に課題に何度も取り組んでいました。

学生自身で内容を作成する楽しさがあるようなので、その完成度を高めようと必死に取り組むのではないのでしょうか。1月は、スペイン語で、物語を作って、字幕を付けるという課題に取り組んでいるようです。語学学習において、教材として動画を活用することは、客観的に自分ができるようになるからかもしれませんが、学生の関心が非常に高いと感じています。完璧を目指す学生が多いからなのか、どの科目でも熱心に取り組んでいます。

Q4: 逆に失敗したなということはあるですか。

出来るかどうかについて聞かれたとき、「出来る」と答えたのですが、事前準備や段取が不足したまま授業に臨んでしまい、学生への操作説明などで授業時間の半分を要したときは、「失敗したな」と思いました。やっぱり、事前の準備や段取が全てであると再認識しました。

Q5: 授業デザインの提案について、具体的にどのような提案をしていますか。

「CALL 活用例集」を発行して、授業時間配分などの事例紹介をしています。主に学習指導案の提案です。それらをシステム化して、CALL 教室でどういった授業をしたのかなどの履歴として残すこともできるので、他の教員との共有が可能です。また、それらの活用方法は、講習会やワークショップで周知しています。

課題としては、教員によっては、パソコン機材などへの苦手意識の強い方々も多いので、活用への最初の一步への背中を押す粘り強いサポートが必要だと感じています。

Q6: 最後に何か PR したいことはありますか。

CALL 教室では、教員や学生に様々な語学学習サポートを行っているのもっと頼って活用して下さい。何をしているのか知りたい方、CALL 教室の活用方法が詳しく知りたい方は、講習会やワークショップに是非参加して下さい。

